

2020年度 岡山大学大学院法務研究科
法学既修者A日程 試験問題

刑事法系（刑法，刑事訴訟法）

<解答上の注意>

1. 問題冊子は，表紙を含め3枚である。
2. 問題には，問題1と問題2がある。配点は，問題1が60点，問題2が40点である。
3. 表裏に解答欄がある解答用紙は，問題1用と問題2用の2枚が配布されている。各問題ごとに解答用紙1枚を使って解答すること。
4. 解答用紙の受験番号欄に受験番号を算用数字で記入し，また試験科目欄に「刑事法系」と記入すること。なお，整理番号等その他の記入欄には記入しないこと。
5. 試験終了後，問題冊子及び下書き用紙は持ち帰ること。
6. 解答の際は，黒又は青のボールペンを使用すること。
7. 六法は貸与品なので，折り曲げや書込みをしないこと。なお，書込み・汚損等がある場合は申し出ること。
8. 試験終了後，解答用紙と貸与した六法を回収するので，指示があるまで席を立たないこと。
9. その他は，すべて監督者の指示に従うこと。

【問題1】 次の各設問に答えなさい。解答用紙の冒頭に「問題1」と記入すること（解答順序は問わないが、設問番号を記入すること。また、2問とも解答すること。）。

〔設問1〕（配点30点）

Xは、軽傷を負わせるつもりでAの右腕を切りつけたところ、Aが負った傷自体は非常に軽いものであったが、Aが血友病に罹患していたため、血が止まらなくなり、Aはその後出血多量で死亡した。Xは、Aが血友病に罹患していることを知らず、Aの友人たちも、Aが血友病に罹患していることを知らなかった。

Xの罪責を論じなさい（但し、特別法違反の罪を除く。）。

〔設問2〕（配点30点）

Yは、日頃からいさかいの絶えないBに対する嫌がらせ目的で、Bが愛用している腕時計を持ち出してそのまま捨ててしまおうと考え、ある日、Bの留守を見計らってB宅に侵入し、腕時計を持ち出した上で、そのまま近くの川に投棄した。

Yの罪責を論じなさい（但し、特別法違反の罪を除く。）。

《問題1 以上》

《次頁に続く》

【問題2】 次の〔事例〕を読んで、後記〔設問〕に答えなさい。解答は、【問題1】を解答した用紙とは別の解答用紙に書き、冒頭に「問題2」と記入すること。

〔事例〕

- 1 司法警察員P・Qらは、被害者の胸をナイフで刺して殺害したという被疑事実で被疑者Aの逮捕状の発付を得た。そして、ある日の午前8時頃、Pらは、Aを逮捕するため、Aが単身居住するA宅（2階建の一戸建家屋）に赴いた。PがA宅の呼び鈴を押して警察官であることを名乗ると、Aが応対に出て、Pらに対し室内に入るよう促した。そして、同日午前8時1分、Pは、A宅の1階居間において、Aに逮捕状を示してAを逮捕した。なお、このとき、A宅には、Aと警察官らの他には誰もいなかった。
- 2 Aの逮捕後、QらはAの行動を制限して居間に待機させ、他方、Pらは、捜索差押許可状の発付を得ないままA宅内の捜索を開始した。そして、同日午前8時10分頃、2階寝室の戸棚の引出しから拳銃を発見したので、これを差し押さえた (①)。
- 3 Pらがさらに捜索を続けていると、一瞬の隙をついて、Aが居間に面した掃き出し窓から逃走したので、Qら数名の警察官はAを追跡した。他方、Pらがその場に残ってさらに捜索を続けると、同日午前8時15分頃、同2階寝室の押し入れの中から、防犯カメラに写っていた本件被疑事実の犯人が着ていたのと特徴の一致する長袖Tシャツが発見され、その長袖Tシャツに多量の血痕が確認されたので、Pはこれを差し押さえた (②)。

〔設問〕（配点40点）

下線部の差押え①及び②は適法か。具体的事実を摘示しつつ論じなさい。なお、逮捕の手続には、違法な点がないものとする。

《問題2 以上》

《刑事法系問題 以上》

【出題意図】

【問題 1】（刑法）

設問 1 は、行為当時に存在した異常な事情と因果関係の有無について、理論的理解及び事例処理能力を問うものである。

設問 2 は、不法領得の意思が問題となる事例を素材として、財産犯の基本的な理解及び事例処理能力を問うものである。

【問題 2】（刑訴法）

本問は、刑事訴訟法 220 条 1 項の規定する令状によらない捜索・差押えにつき、同条同項の趣旨を踏まえてその要件の解釈を示すことができるか、また、自らの示した見解に基づいて具体的事案を解決できるかを問うものである。